

# 新イベント 「発見!水の文化」スタート!

ミツカン水の文化センターでは、2017年より新たなイベント「発見!水の文化」をスタートします。

これまで開催していた「里川文化塾」よりもう少し身近で気軽に参加できる企画をそろえ、多くの方に興味をもって参加していただけるイベントにしていきます。

専門家に解説していただきながらの街歩きや滝鑑賞、舟めぐりなどを通して、身近にある「水の文化」を再発見し、私たち

の生活を取り巻く「水の恵み」に気づききっかけになればと思います。

記念すべき第一回目は、東北学院大学経営学部教授の斎藤善之さんのご案内で東京の日本橋を歩きます。かつての水の都「江戸」に残る水路・掘割の跡を巡りながら、当時の街づくりにおける「舟運・水」の重要性を発見します。日本橋ゆかりのスーツもご用意しますので、一緒に楽しく歩きましょう!

## 「発見!水の文化～江戸の水辺街歩き(日本橋編)～」



全国へつながる街道の起点として賑わった日本橋。江戸時代は日本橋の南詰め東側が罪人の市場(さらしば)、南詰め西側はお触れなどを掲示する高札場だった



講師：斎藤善之さん  
(さいとう・よしゆき)  
東北学院大学経営学部 教授

**日時**：2017年7月22日(土) 13:00～16:30ごろ  
(小雨決行。荒天時の予備日=7月30日(日))

[集合] 13:00

JR東日本「東京駅」八重洲北口付近

[解散] 16:30ごろ

東京メトロ東西線・日比谷線「茅場町駅」

**街歩きルート**：東京駅八重洲北口集合→日本橋・日本橋室町エリア→日本橋堀留町・小網町エリア→日本橋兜町・茅場町・新川エリア→茅場町駅解散

**募集人数**：15名程度(参加費無料)

※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます

※参加決定者には7月10日ごろに事務局よりご連絡いたします

※詳細は当センターのホームページにてご確認ください

**応募締切**：7月9日(日)

## 坂本貴啓さんの近況と「Go!Go!109水系」休載のお知らせ

川系男子の坂本貴啓さんの案内で全国の一級河川「109水系」をめぐる連載「Go!Go!109水系」は、坂本さんの大学院卒業、就職などの事情により今号は休載しました。

坂本さんは博士号(工学)を取得し、2017年4月から国立研究開発法人 土木研究所 自然共生研究センターの専門研究員として勤務しています。1998年(平成10)11月、岐阜県各務原市に設立された自然共生研究センターは、河川湖沼の自然環境の保全と復元のための研究を行ない、その結果を広く普及することを目的としています。

敷地内には木曾川と新境川につながる3本の実験河川があり、坂本さんはここを訪れる人々へのガイドや案内板の確認・整備などを担当しています。近いうちに実験河川での研究もスタートする予定です。

「Go!Go!109水系」は続ける方向で調整中です。パワーアップした坂本さんの再登場にどうぞご期待ください!



土木研究所 自然共生研究センターの専門研究員になった坂本貴啓さん

### これまでに紹介した河川

- 第1回 遠賀川 福岡県
- 第2回 米代川 秋田県・青森県・岩手県
- 第3回 旭川 岡山県
- 第4回 熊野川 奈良県・三重県・和歌山県
- 第5回 天塩川 北海道
- 第6回 物部川 高知県
- 第7回 那珂川 茨城県・栃木県・福島県
- 第8回 黒部川 富山県
- 第9回 天竜川 長野県・静岡県・愛知県
- 第10回 荒川 山形県・新潟県
- 第11回 斐伊川 島根県・鳥取県
- 第12回 藍川 愛媛県



## 水の文化 Information

### ■「水の文化」に関する情報をお寄せください

本誌「水の文化」では、今後も引き続き「人と水のかかわり」に焦点をあてた活動や調査・研究などを紹介していきます。

ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根ざした調査や研究がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

### ■ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください。

<http://www.mizu.gr.jp/>

### ■水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページからPDFファイルとしてダウンロードできるほか、冊子をご希望の方はホームページの「最新号のお申し込みボタン」からお申し込みいただけます。どうぞご利用ください。

### ■里川文化塾レポート詳細版は、ホームページで

里川文化塾のレポート詳細版は、参加できなかった方も楽しめる内容です。また、今後の「発見!水の文化」についても、順次ホームページでご案内します。ご注目ください。

## 皆さまの感想を お待ちしております!

『水の文化』56号について、アンケートにご協力ください。  
今後の機関誌をよりよくしていくための参考にさせていただきます。

◆アンケートへの回答はこちらから。

<http://www.mizu.gr.jp/form56.html>



※アンケート用紙をお持ちの方は、FAXまたはメールにて  
下記へご返信いただく形でも結構です。

FAX: 03-6685-7596

メールアドレス: [tokyo-office@mizu.gr.jp](mailto:tokyo-office@mizu.gr.jp)

### 編集後記

どんな人にも「身近な自然」である雲。時間の経過や、天気・四季の変化まで体感的に理解できる。だからこそ長い時代変遷の中で、絵巻物の読者の階級が多様化しても、「雲」は変わらずある意味を表現する記号として使われ続けた……。身近だからこそ「共通言語」になれる雲。その魅力の一端をつかめた気がした。(松)

水滴が空に浮かんで、雲になって、そして知らぬ間に消える。小林先生と考えた「雲の哲学」。雲が教えてくれることはない。しかし、雲を見ることで自分は学ぶことがたくさんある。先生の言葉に感動して、それからやたら空を見上げて歩く私。転ばないように、そしてこの気持ちをお忘れなないように頑張ります! よろしくお願ひします。(IM)

運航支援者にストーム・チェイサー、恥ずかしながらこのような仕事があるのを初めて知った。いつも見ている雲に、思いがけず世界を広げてもらった。雲はとても奥が深い。色んな写真で自分の好みがあったので、今度は自力で好きな雲を見つきたい。(原)

手をつないで歩いてきた保育園からの帰り道。赤く染まった夕焼け雲をみて、「きれいだね」と子供が言った。空を見上げることは、子供の頃から自然と体得しているのかもしれないと思った。せわしない日常の中で、空を見上げて気分転換をすることを忘れないでいたい。(吉)

雨上がりの後、水たまりに映り込む雲を見て空を見上げる。たぶん先に空を見ているはずなのに、ようやく雲に気づく。水たまりという額縁で切り取られ、雲が主役になるこの瞬間は、晴れ晴れとした気分と相まって実に心地が良い。(力)

「これだ!」と思える雲にはなかなか出合えない。編集会議の朝、遅れそうになって慌てて飛び出し、ふと空を見上げると待ち望んでいた大きな積雲がもくもく湧き出ている! ところが一瞬レフカメラは置いてきたし、取りに戻る時間も無い。村井さんからお聞きした「いい雲は忙しいときや会議中に出る」という法則は本当だった。(前)

### ミツカン水の文化センター機関誌

## 水の文化 第56号

ホームページアドレス

<http://www.mizu.gr.jp/>

発行

ミツカン水の文化センター

〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中塾ビル4F

株式会社 Mizkan Partners

Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578

お問い合わせ

ミツカン水の文化センター 事務局

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-11-3 中銀 NM・5F

Tel. 03 (6264) 9471 Fax. 03 (6685) 7596

発行日

2017年(平成29)6月

企画協力 (氏名50音順)

沖 大幹 東京大学生産技術研究所教授

古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会

陣内秀信 法政大学教授

鳥越皓之 大手前大学学長

中庭光彦 多摩大学教授

制作

松本裕佳

Milana Irene

小林夕夏

原田朱野

吉田奈保子

編集製作

前川太郎 編集

中野公力 デザイン・撮影

執筆

秋山健一郎 (pp.14-17)

佐々木 聖 (pp.24-27, pp.32-35)

手塚ひとみ (pp.18-21)

開 洋美 (pp.28-31, pp.36-38, pp.42-44)

前川太郎 (pp.6-13, pp.22-23)

撮影

大平正美 (pp.24-27)

葛西亜理沙 (pp.42-44)

川本聖哉 (pp.14-17, p.22, p.27, pp.36-38)

鈴木拓也 (p.32, p.34)

中野公力 (p.28)

藤牧徹也 (p.7, p.12, p.19, p.21, pp.45-49)

組版

蔵田 豊

描画

赤木あゆ子 (p.9, p.20, p.26)

印刷

中塾総合印刷株式会社

※禁無断転載複写